



月2回のお弁当配布の日。お昼過ぎからボランティアさんやスタッフの皆さんが集まって準備し、夕方からお弁当のほか、お菓子やパンなどを渡します。

市内で活動している「子どもの居場所」のひとつに、平成30年11月から活動している「わくわく食堂」があります。

わくわく食堂

インタビュー

NPO 法人
わくわくみらい応援団
ふるかわ そういち
代表理事 古川 惣一さん



「PTA活動でできた仲間と『今後も、地域の子どもたちに携わることをしたい』と意気投合したのがきっかけです」と、代表の古川さん。

場所を探していたところ、同じく子ども食堂に関心があった上福岡1丁目のスナック「フアンタジー」のオーナー夫妻を紹介してもらい、「子ども食堂」を始めました。

ホールいっぱいに机を並べ、多いときは50人以上の子どもや保護者、スタッフやボランティアが参加。食事をするだけでなく、ゲームをしたり、コンサートを開催したりとさまざまな活動を行っています。

新型コロナウイルスの流行を受け「子ども食堂」の活動を休止しましたが「今こそ子ども食堂が必要だ」と、最初の緊急事態宣言が発出されていた昨年5月に、お弁当の配布へと形を変え、活動を再開。ことは、県の補助制度などを活用し「わくわくパントリー」も実施しました。

子育て世帯のお母さん、お父さんたちの味方



「わくわく食堂」の皆さん

「子どもたち、子育て世帯のお母さん、お父さんたちの味方になる『子どもの居場所』にしたい」と思って活動しています」と古川さん。今来ている子どもたちが大人になっても居場所が継続できるように、持続して活動することを目指しています。

たくさんの方の協力のおかげ

必要な人が利用しやすいよう、「子どもの居場所」は、無料から数百円の利用料で運営されています。わくわく食堂も大人300円、子どもは無料です。「事業所さんや農家さんが寄付をくださるお米や野菜などを活用しています。ま

また、さまざまな経歴・年齢の人がボランティアとして参加。特技を生かしてお菓子を作ってお弁当と一緒に配布したり、料理の得意な人が献立を考えたり、料理は苦手でも力のある人はたくさん食材を運んだり、それぞれの分野で力を合わせています。



学生もボランティアに参加！勉強やアルバイトと両立しながら、時間のある時に活動に参加しています。



子ども の 居場所

特集

みんなで行こうよ！



核家族化が進み、共働きやひとり親家庭が増えています。忙しい子育て世帯のお母さん、お父さんを支え、家庭や学校に次ぐ第3の「子どもの居場所」づくりの活動が、市内にも広がっています。

☎ 福祉総合支援チーム (TEL049・262・8130)

「子どもの居場所」とは

食事の提供や学習支援などを通して、子どもや保護者が地域の人たちと触れ合い、安心して自分らしく過ごせる、誰でも利用できる地域の居場所です。

10年ほど前から子どもや保護者の孤立や孤食を防ごうと、全国で活動が始まりました。今では多世代の人が集まることで、地域交流の場としても機能しています。



わくわく食堂提供

市内の「子どもの居場所」

市内では、平成27年からNPO法人やボランティア団体が「子どもの居場所」づくりの活動を始め、現在、9つの団体が活動しています(6ページ参照)。

新型コロナウイルスの影響で活動形態を変えた団体もあり、飲食店での子ども食堂、お弁当の提供、食料品や日用品などを配布する「フードパントリー」の活動など、それぞれが知恵と工夫を凝らして活動しています。

市では「子どもの居場所」を応援しており、市民の皆さんに実際に訪れ、活動に参加・協力していただくため、「子どもの居場所」と活動に関心のある皆さんをつなぐ取り組みに力を入れています。

にぎやかなところ、静かに過ごせるところ、たくさんのお出合いがあるところなど、さまざまな「子どもの居場所」があります。ぜひ自分に合った居場所を見つけてください。

ふじみ野市役所
福祉総合支援チーム
「子どもの居場所」担当
なかむら いく
中村 生 主査



ふじみの国際交流センター

上福岡5・4・25
TEL049・256・4290
✉ npo-ficec@ficec.jp

活動日時 毎週月～金曜日午前10時～午後4時、土曜日午前9時～正午

外国ルーツの子どもの学習支援や、保護者の日本語教室を行っています。勉強だけでなく生活や文化に関する相談や、子ども・保護者同士の交流、フードバンクの常設など、生活支援もしています。

P10に
インタビュー
掲載



ぶんぶん (文京学院大学まちラボ)

緑ヶ丘1・4
大井ショッピングセンター内
TEL049・261・7859
※休止中。

文京学院大学まちづくり研究センターの学生がキャンパス周辺の空き店舗を活用し、地域活性化・交流の拠点づくりを進めてきましたが、現在は新型コロナウイルスの影響で活動を休止しています。今後は、オンラインを利用した情報発信や地域交流イベントを企画して、地域の皆さんとの交流を考えています。



市社会福祉協議会

子育て支援の一つとして、福祉総合支援チームと協働し「ふじみ野子育て応援フードパントリー」を立ち上げました。今後も、NPO法人や地域の関係機関などと協力し、フードパントリーを定期開催していきます。



パントリーの看板▶

めだか食堂

上福岡1・5・31 STビル1階
TEL049・269・2155

活動日時 毎月第2日曜日午前11時30分～午後1時
民設民営放課後児童クラブのメンバーが「コロナ禍だからこそ、子どもや保護者がホッとできる場所をつくりたい」とオープンした子ども食堂です。明るく元気、パワフルなお母さんたちと手作り弁当が魅力。お兄さんボランティアも一緒に活動しています。



おいココロンくらぶ

ふじみ野1・1・15
TEL049・267・1101
✉ m-itou@mcp-saitama.or

開催日時 第3火曜日テイクアウト午後4時～5時
平成27年から、市内で一番長く活動をしている多世代交流型の食堂です。地域の子どもや保護者で毎日にぎわっていましたが、新型コロナウイルスの流行以降は、お弁当の配布やフードパントリーに取り組んでいます。子どもから高齢者まで、誰でも利用できる地域の居場所として根付いています。



P8・9に
インタビュー
掲載

コミュニティ広場にこまる

大井234大井分館
TEL090・7739・0994
✉ nicomaru2071@gmail.com
LINE ID [@859yaymk]
活動日時 毎月第1水曜日
午後5時30分～6時30分

スパイスカレーフラッピー

上福岡1・12・18
TEL080・6540・3423
✉ curryflappy@gmail.com

活動日時 毎週木～日曜日午前11時30分～午後3時
バーを間借りして営業しているカレー屋さん。一口500円の「おごりチケット」での寄付を中心に、子どもに本格的なカレーなどを提供しています。テイクアウトはもちろん、店内でゆっくり食べることもできます。



飲食店も、お店と料理の腕前を生かして「子ども食堂」をやっています！

どん亭子ども食堂

上福岡1・10・2 2階
TEL049・265・5291

活動日時 毎月第2・4月曜日午後6時～7時30分
普段は市場で仕入れた新鮮な魚や本格的な四川麻婆豆腐、手作り餃子などが人気の居酒屋です。店長さん自身が苦労してきた経験から「さまざまな事情で苦労しているお子さん、お母さん、お父さんの力になれば」と子ども食堂を始めました。「まずは食べて元気を出す。そして笑顔になる」が店長さんの望み。子ども同士で遊び、励まし合い、おしゃべりできる場所を目指しています。



ルミエール・ビバン

駒林元町1・6・12駒林区画整理記念館
TEL049・293・6274
✉ fseai@yahoo.co.jp

※新型コロナウイルスの影響により、不定期開催。
NPO法人ふじみ野明るい社会づくりの会が運営し、高齢者と大学生が食事作りやゲームなどを通して、世代間交流する活動をしています。活動を縮小していますが、何かできることはないかと、子どものいる世帯に無償でお弁当を配布しています。



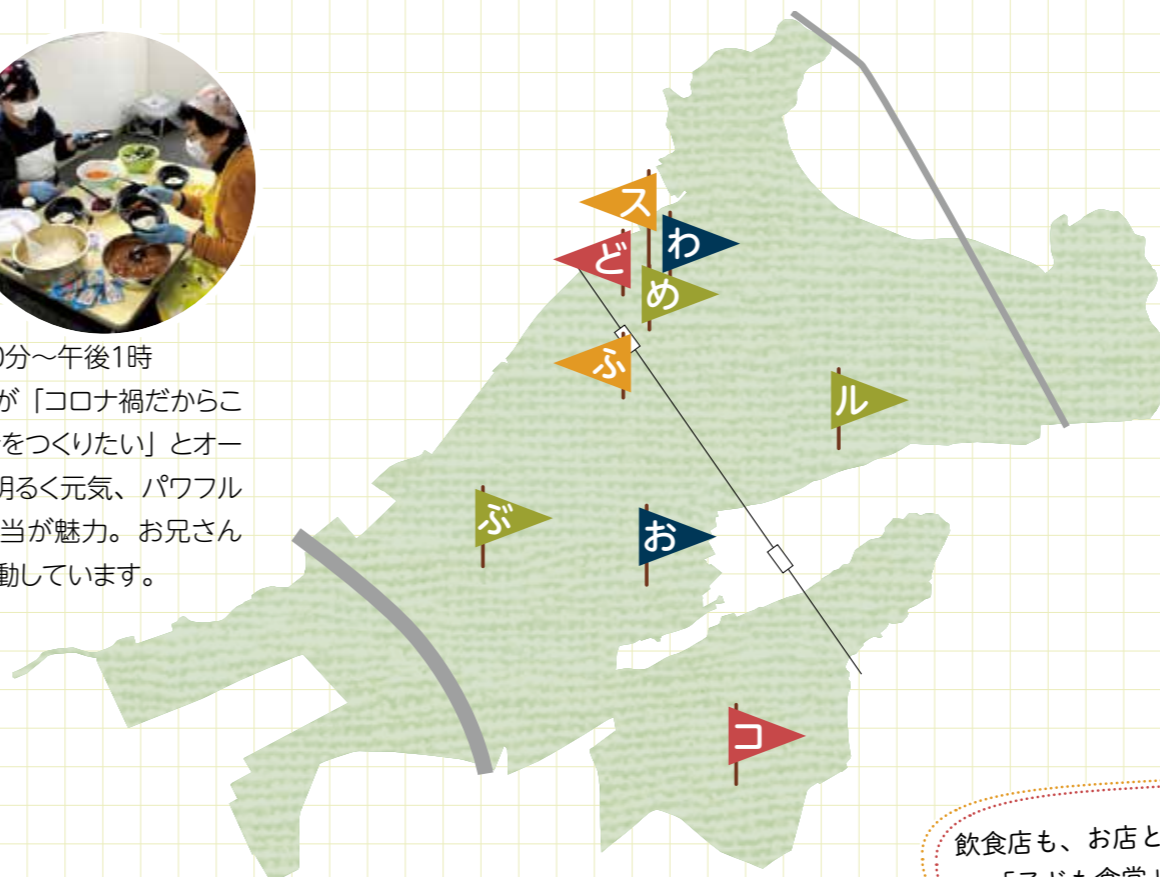
わくわく食堂

上福岡1・13・7パールビル
TEL080・9116・7158
✉ waku2mirai.oendan@gmail.com
LINE ID [@261ceaan]
活動日時 毎月第1・3水曜日
午後5時30分～6時30分

P5に
インタビュー
掲載

子どもの居場所 一覧&MAP

令和3年6月現在、ふじみ野市内には9つの「子どもの居場所」があります。食事の提供、学習支援、遊びの場の提供など、その取り組みはさまざまです。

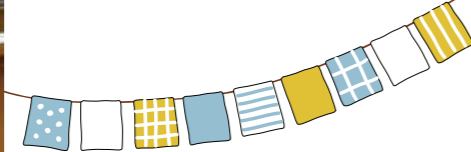




高橋さんやボランティアの皆さんの子どもたちも、放課後は分館に来て手伝ったり、広い分館で友達と宿題したり遊んだりして過ごします。



大井本町町会広報部提供



活動を始めるまで、地域の人の関わりは、学校など子ども同士の間が中心だったため、近所の知り合いは多くなかったという高橋さん。「『にこまる』を始めから、分館長さんが仕事の休みを変更して毎回来てくださったり、自家製の野菜を頂いたり、『力を貸してくれる方が身近にこんなたくさんいるんだ！』と驚きました」約50食でスタートしたお弁当の数も、多いときは100食近くまで増えました。「応援やご寄付のおかげです。活動を支えてくれる皆さんに、本当に感謝しています」

地域の力を借りて

月に1回、「献立を考えなくて良い日」だと思って

ママ友に「『にこまる』の話すると驚かれるという市川さん。子どもや保護者との交流だけでなく大人同士のつながりも生まれ、活動の利点は想像以上。お弁当については「月に1回、献立を考えなくても良い日だ」と思って、気軽に利用して良いんだよ」と伝えているそうです。

利用も支援も気軽に



「『にこまる』のボランティアの代表の高橋さんは、数年前から三芳町でボランティアに参加していましたが「目の届く、地元の子どもたちに向けて活動したい」という強い思いがあり、昨年1月に一念発起。立ち上げに向けて動き始めました。子どもの居場所づくりアドバイザーや市社会福祉協議会、町会などに相談して場所を探し、地域の人足を運びやすい、地元の大井分館に決定。ボランティアは、SNSで募集しました。



ボランティア
とだ ようこ いちかわ たかこ
戸田 陽子さん、市川 隆子さん

人である戸田さんも、フェイスブックで高橋さんの投稿を見つけた。「以前から『子どもの居場所』に関心はあったのですが、場所が遠いなどで参加する機会が無く……自宅から近い分館で開催するというので『参加します』とメッセージを送りました」。高橋さんとは、活動日が初対面でした。

インタビュー

コミュニティ広場にこまる
たかはし なおみ
代表 高橋 直美さん



「子どもの居場所」は世代間交流の場にも



大井本町町会広報部提供
大学生ボランティアを招いて、ジャグリングを披露してもらったことも。

ボランティアで参加している市川さんは高橋さんの友人で、学区の違う地域に住んでいます。「『にこまる』に来なければ出会う機会が無かった人と出会い、年齢も家も離れた戸田さんとも友達になって刺激を受けています。逆に、小さいお子さん連れの方のちょっとした会話の中で、自分の子育ての経験談を役立ててもらえたこともありました」と話し、「子どもの居場所」は世代間交流の場にもなっています。

世代間交流の場にも



5月のお弁当には、こいのぼりの飾りが。ハンドメイドの消しゴム判子作家でもある市川さんの作ったシールは、「にこまる」のお弁当のトレードマークです。

高橋さんは「子どもの居場所」を立ち上げる際、「核家族化で高齢者との接点が減ってしまったので、地域の人のお茶飲み場のようになることが理想」と考えていました。子どもたちに楽しんでもらえるよう、お弁当の配布やジャグリング、コンサートなどのイベントも開催しました。

「子どもの居場所」に来て どう思いましたか？

いつも、自分では作らないメニューや食材が入っています。子どもたちがおいしそうに食べるのを見て、レシピを真似することもあります！

テレビやネットで知った「子どもの居場所」が市内にもできて、嬉しいです。

コロナで外出を控えているので、身近な場所で活動していただいて助かります。

今は家で子どもと過ごす時間が長いので、「子どもの居場所」で皆さんと話す時間が新鮮です。

子どもがもう少し大きくなったら、私もボランティアに参加したいです！

すぐ近くに、子育て世帯を応援してくれる人たちが居ることが分かり、心強いです！

利用しているうちに、子どもの友達も増えました。

知り合いのいない中にボランティア参加しましたが、皆さん優しく、毎回楽しく活動しています。

もっと知りたい

子ども食堂等活動報告会

「子どもの居場所を立ち上げたい」、「活動に興味がある」、「ボランティアをしてみたい」、「子ども食堂に行ってみよう」、そんな皆さんに向けて「子どもの居場所」づくりを知っていただく活動報告会です。

今回、インタビューを掲載した「わくわく食堂(P5)」と「コミュニティ広場にこまる(P8～9)」の2団体が活動報告を行います。

日時 7月30日(金)午後2時～3時30分



場所 サービスセンターホール(霞ヶ丘1・2・7)

定員 約50人(申込順)

内容 子どもの居場所の立ち上げや運営に関する支援について(県少子政策課)、市内で活動する団体からの活動報告

申込方法 7月5日(月)～28日(水)に、福祉総合支援チーム(下記)へ電話かメールで申し込む

寄付をしたい

市では、企業や生産者から寄付された食料品や日用品などを必要な人に配布する「フードパントリー」の活動を市社会福祉協議会と協働して開催する「ふじみ野子育て応援フードパントリー」や「子どもの居場所」と連携し、定期的

に実施しています。

ご協力いただける場合は、福祉総合支援チーム(下記)へご連絡ください。



「わくわくパントリー」

行きたい

市内の「子どもの居場所」では、コロナ禍による需要の高まりもあり、調理や配膳・配布などのボランティアを募集しています。

活動に興味がある・ボランティア希望・子ども食堂を利用してみたい人は、ぜひ福祉総合支援チーム(下記)へご連絡ください。ご希望の子どもの居場所をご紹介します。

子どもの居場所に行きたい人は、ご連絡ください。一緒に行きましょう!



「子どもの居場所」は、気軽に利用でき、安心して過ごせる居心地の良い地域の居場所です。私も皆さんの活動を見て、自分も頑張ろうと思ったり、突き動かされたり、癒やされたりしています。

さまざまな「子どもの居場所」があるので、自分の好きな居場所をみつけてみてください。

福祉総合支援チーム(市役所本庁舎2階)

TEL 049・262・8130 | fss-team@city.fujimino.saitama.jp



子どももおとなも 子どもの居場所に行こう

学習支援

市の「子どもの学習支援教室」では、退職教員や大学生などのボランティアが、子どもたちの学習支援を行っています。勉強だけでなく、支援員による子ども・保護者の相談や家庭訪問、楽しいイベント、生活支援なども同時に行います。主な対象者は、児童扶養手当・就学援助費・生活保護の認定を受けている世帯の中学生・高校生などです。学習を介して、安心して通うことができる子どもの居場所です。



曜日(※)	時間	場所	対象校など
火・木曜日	午後6時30分～8時30分	市役所本庁舎	福岡中、葦原中、花の木中、高校生
水・金曜日		大井総合支所	大井中、大井西中、大井東中



※隔月で週1回または2回開催。 ※受託団体「(一社)彩の国子ども・若者支援ネットワーク」。

参加方法 福祉総合支援チーム(P11参照)へ電話かメール、窓口で事前に申し込む

外国ルーツで日本語が苦手な子ども向けの学習支援



利用者 Sさん

小学5年生の時に中国から来日しました。当時は週3回・中学からは週1回「ふじみの国際交流センター」に通っています。日本語の読み書きや教科の勉強、日本の文化を勉強しました。「て・に・を・は」やひらがな・カタカナ、中国に無い漢字を覚えるのが難しかったです。春から高校に進学し、授業は全て日本語で受けています。

ふじみの国際交流センターは、地域の外国籍の人への生活支援、日本語指導など、多文化共生の町づくりを目的に活動しているNPOです。「国際子どもクラブ」では、6～18歳を対象に学習支援を行っています。退職教員や学生を中心としたボランティアが、日本語や学校の勉強、生活支援、日本語指導など、多文化共生の町づくりを目的に活動しています。現在は、感染症対策のため交流に制限があります。コロナが落ち着いたら、子どもたちが放課後に宿題を持って気軽に集まり、仲間を作れる居場所にしていきたいと考えています。

NPO法人ふじみの国際交流センター

詳細は P7



ふじみの国際交流センター
国際子どもクラブ
やまはた ひろこ
理事 山畑 博子さん